

地域の経済動向（令和4年7～9月期）

《道北（上川・留萌・宗谷）地域》

1 経済動向に係る企業等の声（7～9月期）

【建設業】

- ・人材や資材不足、資材全般の価格高騰による受注機会の減少や利幅の減少などに加え、労務費の上昇も重なり厳しい経営にあり、設備投資が厳しい状況。（建築工事業）
- ・売上が上がっても原価が上昇しているため、価格転嫁が難しい中では、利益率が下がり、資金繰り悪化が懸念。（電気通信・信号装置工事業）
- ・戸建てを中心に減少傾向にある中、原油高などが利益を圧迫。（木造建築工事業）
- ・すべての建設資材の価格上昇や労務費の上昇により、価格転嫁しているものの、利益が圧縮されてきており、人手不足もあることから、来年に向けてこの傾向は強まると思われる。（建設業）
- ・民間投資意欲の回復により民間建設工事受注が上向き傾向であるとともに、一般個人住宅新築需要も回復傾向が見られるが、資材の高騰から収益性は低下し、設備機器の納品遅れから工期完了に向けた時間外労働の増加が観られる。（建設業）

【製造業】

- ・どさんこプラザシンガポール店への出店を通じ、現地業者から引き合いがあり、日本の売価の2倍で販売。利益率は高い。（水産食品製造業）
- ・メーカーが今年1月に15%以上、7月に15%以上値上げ。経営が非常に苦しい。（印刷業）
- ・木材、石油精製品、部材等の値上げが相次ぎ、商品価格を上げたが、しばらくの間は買い控えが予想され、今年いっぱい苦戦が続くものと想定。（家具製造業）

【卸売・小売業】

- ・原材料や光熱費などが大きく上昇しているが、まだ価格転嫁が進んでおらず、値上げ時期と上げ幅が悩ましい。（小売業）
- ・仕入価格上昇分を販売価格に反映させ、適正な利益の追求に努めていかなければならないと考えている。（卸売業）
- ・仕入価格上昇分を売価に転嫁できないものもあり、厳しい状況。（卸売業）
- ・人流が回復し旅行客も増え、売上増につながってきている。（小売業）
- ・物価高騰が消費に影響を与えているほか、納期遅れの発生などにより売上につながらないケースが多く見られる。（小売業）
- ・コロナの第7波により先行きは不安定。仕入価格の上昇を売価に転嫁できないものも一部あり、厳しい状況が続く。（卸売業）
- ・原油価格が高止まりしているが、国の激変緩和補助が9月末までの為、今後の価格対応が難しく、作業用消耗品や電気料金などの支出が増加しているため、従来の利益幅が減少しつつある。（小売業）
- ・数年前までは、コロナによりイベントが中止になった影響で売上げが落ちたものの、飲み会や送別会を開催できない代わりにお花を贈る方が増え、大きく売上が上下することはなかった。トータルでみて少し落ちている。（小売業）
- ・仕入価格の影響が顕著で、商品値上げが追いついておらず、利益確保に課題が多いが、業況は回復基調であると言える。一方で、最低賃金のアップなどにより、人件費上昇が避けられない状況であり、新たな課題となることが予想。（小売業）
- ・引続き対前年比売上増加が継続しており、外出制限のない中で観光地での売上も好調。原材料の高騰が価格引き上げのスピードを上回っており注意が必要。売上増加により当面は資金繰りが回っているが、今後厳しくなることが予想され、燃料価格・給水光熱費上昇も不安材料。（小売業）

【運輸業】

- ・第7波の感染拡大の影響でダイヤ改正や減便等を検討。（一般乗合旅客自動車運送業）
- ・乗務員の高齢化などにより、現在の輸送体制の維持が困難となっており、減便や路線再編成などで運航効率化を図っていかなければならない。（一般乗合旅客自動車運送業）
- ・乗務員不足が深刻化し、輸送体制の維持が困難な状況。（一般乗合旅客自動車運送業）
- ・行動制限が無くイベント増加に伴い、都市間・市内路線ともに利用者増加を予想。（一般乗合旅客自動車運送業）
- ・7月後半から団体客等のキャンセルが相次いだが、お盆時期には予約が多数入り全国各地から観光客が来

ている。(一般貸切旅客自動車運送業)

- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響でダイヤ改正や減便等を検討。(運送業)
- ・公共工事(トンネル工事、道路の災害復旧等)が増えてきているので、売上は好調。過去3ヶ月では、右肩上がりに売上は増えている。冬期間は除雪がメインとなり、一時的に売上は落ちる。(ただし、ゼロ国債で災害絡みが増えると思われることから、年度が変われば売上は増えると思う。)(運輸業)

【サービス業】

- ・観光需要が回復しているが、人出不足のため半分程度の予約とせざるを得ず、収益は厳しい。(宿泊業)
- ・人流は確実に増えてきていることから、昨年・一昨年に比べては好転していると言えるが、コロナ前との比較をすれば8割程度で、疲弊した状況の回復に道のりは長い。(サービス業)
- ・コロナ禍以降、客室やレストランの改装により、団体型から個人型に客層の転換を図り、個人客で収益を上げられるように体制を整えてきたため、口コミなどにより、集客や採用に好影響になっている。(サービス業)
- ・宿泊については、今のところキャンセルはない。予約については、減ってきているものの、どうみん割の利用が多く、大きな影響はない。ただし、宴会は、地元の利用者が多く、キャンセルが出ている。(観光業)
- ・夏期は予約で部屋が満室状態。どうみん割の導入により予約は好調だが、ビジネス客の長期滞在者が多いため部屋の確保が困難。(宿泊業)
- ・最近宿泊客が増加しており、満室の日も続いている。釣りシーズンのため遠方からの宿泊客が多いことが要因の一つと考えている。(宿泊業)

【関係機関・団体】

- ・市内でも新型コロナの感染者が増加し、留萌市立病院が新規外来受付を停止するなど、今までに無い厳しい状況となっており、夜のスナック等の繁華街はひっそりとしている。地域経済は最悪の状況となっており、今後の見通しが見えない状況。(商工会議所)
- ・町内での感染者が確認され、外出自粛によって飲食業は売上減少。また、原油価格高騰等により(石油小売業)仕入単価が上昇、販売価格上昇による消費減。利益率の低下。(建設業)資材価格高騰、納期の遅れが生じている。(商工会)
- ・現在、燃料の高騰で運送業や船舶稼働に対し大幅なコスト高となっているとのこと。(商工会)
- ・天売島および町内宿泊施設のどうみん割事務を代行。利用は好調。夏期は天売・焼尻島への訪問者が好調な印象。(観光協会)
- ・新型コロナウイルス、原油・物価高騰での経営への影響調査結果について、原材料など仕入価格の上昇、原油(ガソリン・灯油・重油等)の価格上昇、取引先、納品先減少による売上減少など、売上原価、原油・資機材等の経費負担増加がコロナ禍に加えた新たな経営不振の原因に浮上する結果となった。(商工会議所)

2 道内金融機関から見た地域景況感 (7~9月期)

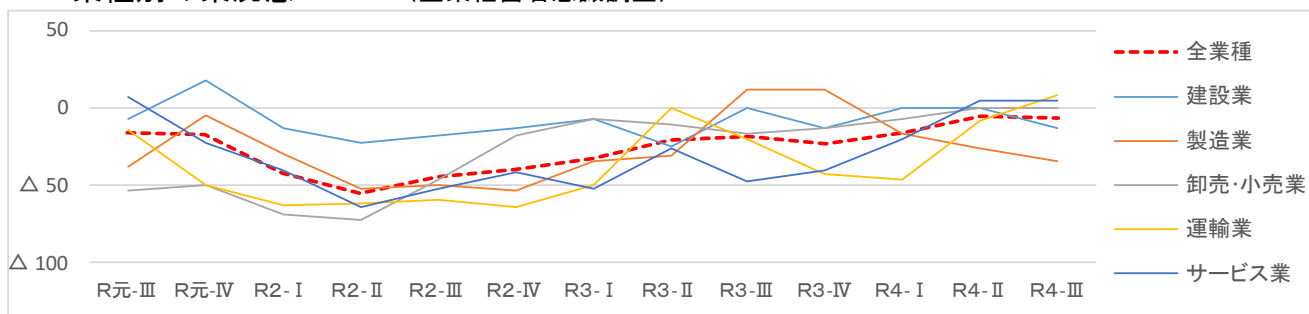
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
非常に好調	好調	やや好調	普通	やや低調	低調	非常に低調

【直近の景況感】	現在の景況感				次期見通し	
	総合	生産動向	消費動向	判断理由	方向感	判断理由
旭川信用金庫				全体的に景況感は上昇しているとの回答が多かったため、「やや好調」とした。新型コロナウイルスによる規制が少しずつ緩和されている状況を反映した結果と推測している。ただ、原材料費の高騰やロシア・ウクライナ情勢への不安は多くの企業から回答された。		今回が上昇している分、次期は今回に比べ下降傾向と判断する。新型コロナウイルスの制限がない時期を迎えても、その後再び新型コロナウイルスが拡大し人手が減少するという状況が多く、実際の体感としてはそこまで景況の回復を感じられないとの企業も多いと予想する。
北星信用金庫				新型コロナウイルスによる自粛は緩和されており、各種イベントの開催等、経済活動の動きは活発化してきている。ただし、依然として物価高の影響は大きく、新型コロナウイルス「第7波」から、消費、企業活動の両面ともコロナ禍前の状況には戻りきらないことを鑑み、前回同様「やや低調」とした。		新型コロナウイルス「第7波」の感染拡大は収束に向かっていく推移に変わってきているが、物価高は今後も続くものと見込まれ、通常の消費、企業活動に戻ることは期待できず、見通しは「変わらない」と判断した。
留萌信用金庫				景気動向調査による業況 DI は、前期と比較して△16.1ポイントで、変化幅が11.8ポイントと上昇しているが、総合では「やや低調」と判断している。「やや低調」の要因は、新型コロナウイルスの影響もあり、売上額・収益も「変わらず」という回答が多く、さらに業況 DI でも「普通」の回答が多いため総合的に判断した。		景気動向調査による次期予想 DI (変化幅)をみると、売上 DI△8.8ポイント・収益 DI△16.5ポイントと業況 DI(総合)△23.5ポイントと「下降」の予想となった。
稚内信用金庫				当金庫で行っている景気動向調査によると、前年同月と比べ、盛業期となる製造業、サービス業の多くで DI の改善が見られる一方、資材・原油高などの物価上昇を背景に建設業、運輸業の悪化が続いている状況に鑑みて、総合を「普通」、生産動向を「やや好調」、消費動向を「普通」と判断した。		同調査によると、受注額 DI (△8.8)、売上額 DI (△15.7)、収益 DI (△28.3) で物価上昇や原油高などによる影響が引き続き懸念され、全業種で収益が低調な見通し。これから各業種閑散期に向かうため、受注額、売上額もやや低調となっていることから、「下降傾向」と判断した。

【景況感の推移】

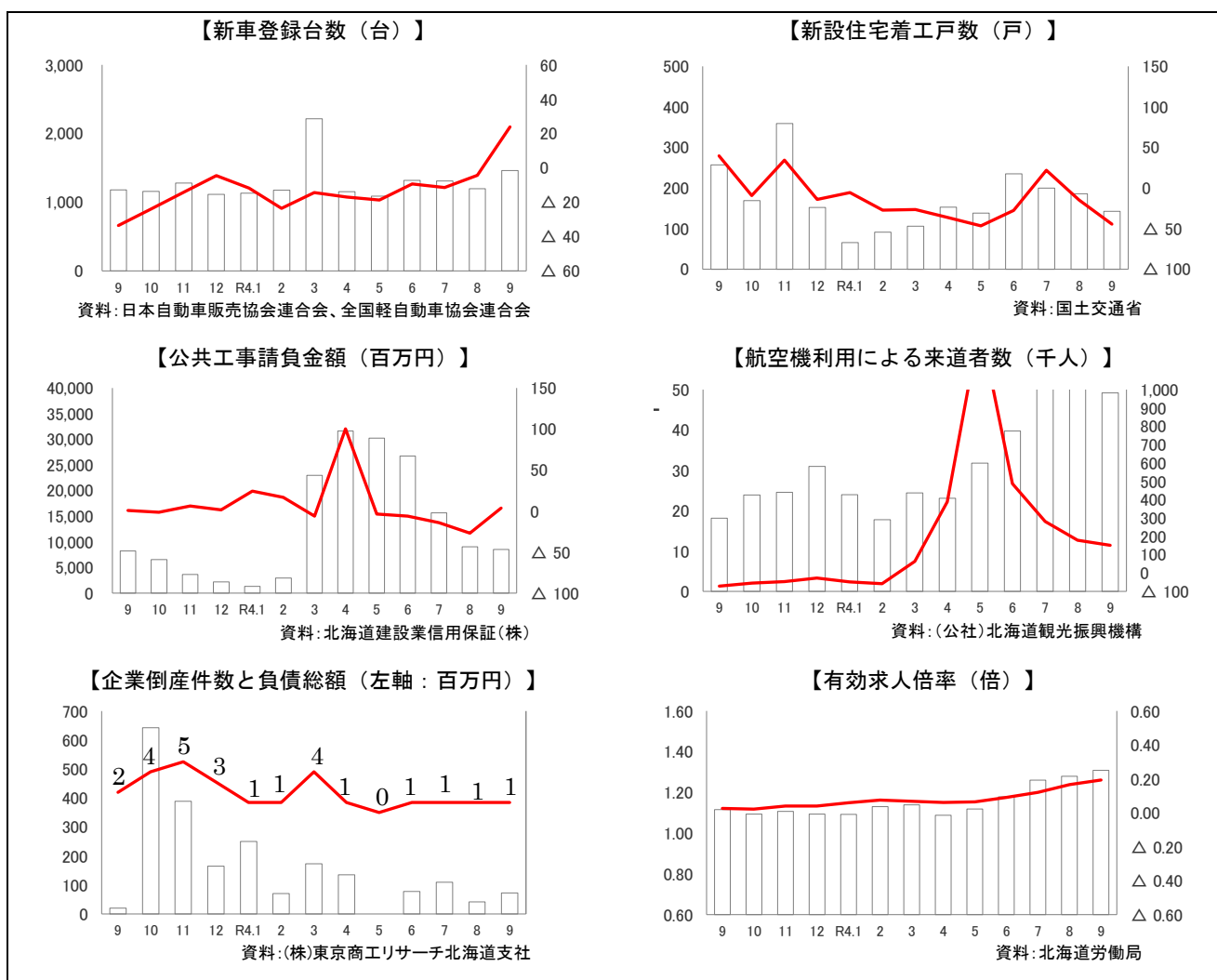
	R2-IV	R3-I	R3-II	R3-III	R3-IV	R4-I	R4-II	R4-III
旭川信用金庫								
北星信用金庫								
留萌信用金庫								
稚内信用金庫								

3 業種別の業況感BSI (企業経営者意識調査)



	R元-III	R元-IV	R2-I	R2-II	R2-III	R2-IV	R3-I	R3-II	R3-III	R3-IV	R4-I	R4-II	R4-III
全業種	△ 16	△ 18	△ 42	△ 55	△ 45	△ 40	△ 33	△ 21	△ 19	△ 23	△ 16	△ 6	△ 7
建設業	△ 7	17	△ 13	△ 23	△ 18	△ 13	△ 7	△ 25	0	△ 13	0	0	△ 13
製造業	△ 38	△ 5	△ 30	△ 53	△ 50	△ 54	△ 35	△ 31	12	12	△ 17	△ 27	△ 35
卸売・小売業	△ 54	△ 50	△ 69	△ 73	△ 46	△ 18	△ 7	△ 11	△ 17	△ 13	△ 7	0	0
運輸業	△ 15	△ 50	△ 63	△ 62	△ 60	△ 64	△ 50	0	△ 20	△ 43	△ 46	△ 9	8
サービス業	7	△ 23	△ 41	△ 64	△ 52	△ 42	△ 52	△ 27	△ 48	△ 41	△ 21	4	4

4 各種経済指標



(右軸: 来道者数のみ前々年同期比、その他は前年同期比(差): %)